

いっぽん!

第2号

伊藤ふみひろ後援会

合併を控えて

新年を迎え、いよいよ、3月19日に合併を迎えることとなりました。

国の三位一体の改革は、補助金の削減 地方交付税の削減 税源移譲

の3改革を同時に行うというものであり、ここでの問題は、

地方の財政力の凸凹を埋めるための地方交付税が削減されれば、地域格差が広がる。

国の財政が苦しい中、税源委譲といつても、税の削減分が補てんされない。

ということですが、我々市町村が合併しようがしまいがこの改革は行われます。

すでに、地方交付税の削減は行われていて、新潟県のH16年度予算は急きよ組み直された経緯があります。来年度以降の動向としては、財源に限りがあるなか、合併特例法で、合併した市町村には手厚い補助を約束しています。したがって、「合併しなかつた市町村にしわ寄せがいかざるを得ない」と言われています。

合併はこのような中で、苦しい選択であり、合併によって今より良くなるとは到底思えません。行政コストを削減することにより、少しでも悪化を防ぐための処置と言えるのです。

従って、これからもっとも大切な局面を迎えます。合併後のまちづくりこそ本番です。旧青海町から7名の市議会議員が選ばれることになりませんが、その責任は非常に重いものとなります。

住民の意見を聞き、時には住民に考えを聞いていただきながら大切なまちづくりの一助になってまいりたいと志しています。



新市でもっとも大切な人事は、「市長」です。議員になってみて改めて感じたことですが、首長の仕事の重要さは一般市民の想像以上であります。新市の行方は「市長」によって決まると言っても過言ではありません。

我々は市民の務めとして、その重大さを認識し、人選にあたらなければなりません。

「どの人がいいか」ではなく、「どんな人が必要か」を基本として立候補者の選定に大いに関心を持ち、単に立候補者から選ぶのではない市民一人一人の関わりが必要だと思えます。

公明正大で新市の発展を導きつる経営感覚に優れた人物を市長に迎えなければ、厳しい財政事情の中で、優れた糸魚川市を築き上げることは不可能です。



新糸魚川市への 取り組み

住民の方々と「小集会」などで膝を交えて次の6つの課題を中心に「糸魚川市」の建設に取り組みます。

子ども達が伸び伸びと育つ地域

心豊かな子ども達が育つ環境の整備に努力します。自ら体を動かし、剣道を通じての「青少年健全育成」にも継続して尽力し、永年の経験と思想を活かして教育問題に取り組みます。子どもたちは国の宝です。

現在の道徳教育荒廃の元は、戦後の日本精神文化の否定にあります。新渡戸稲造が英語でしたためた「武士道」が世界で絶賛され、その精神が認められた「日本流しつけ法」もが政策によって否定され、日本人を骨抜きにしてしまいました。全てを軍国主義と結びつけることによって、一見合理的に否定されてしまったのです。結果として戦前の教育を受けた親たちが自信を持って子供のしつけが

出来なくなり、その子供が親になった時代が今なのです。

現在、一部の国会議員の間で「日本の伝統文化」を通じて教育を立て直そうという構想があります。

日本人が自らの長所を見直し、長い年月を掛けて熟成してきた文化を通して、日本人の精神・長所を取り戻すべきです。

この地域にも情熱を持って、青少年の健全育成に当たっている人たちが沢山います。こういった人々を大切に作る仕組みづくりも必要です。

「身体」を動かし鍛えることは「強い精神」「何事にも立ち向かう」気力と体力を充実させると同時に、身体のパランス面から学力向上にもつながります。

「地域の子供達」は「地域」が育てる・地域住民、大人としての役割を自ら率先垂範する伊藤氏に共感。青少年育成に情熱を注ぐ一人として応援します。

市振 T・T 50代男性

高齢者が元気な地域

介護を受けなければならぬ高齢者の減少を目指して、中高年者の健康促進を推進しなければなりません。

山梨県の増穂町では、「高齢者の筋力トレーニング」をはじめとしています。特別の器具を使わない方法によって自宅でもできるトレーニングを各地区の公民館やふれあいの家でそれぞれ月2回程度行われています。まだ統計が取れる時期ではありませんが、参加者の体力向上は顕著だと実感しているそうです。

老人医療費が県内トップ水準の当地域にとつて、高齢者の健康増進は新市の最重要課題の一つであり、早急に取り組むべき問題です。



支援者の方々と町政談義（小集会）

「自転車に乗って頭脳の活性化と体力アップ」
永年に渡って乗り慣れた自転車で安全第一を心掛け、通勤に気分転換にと楽しみを味わっています。

ちなみに効用は、
減量化 行動範囲が広がりマンネリ化防止
絶えず平衡感覚を養い頭脳を活性化する
足腰が強化され若さを保つ
と一石二鳥この上なしです。年を経る毎に、健康でより美しくなる。そんな生き方をしたいものです。

本町 O・S 70代男性

若者が定着する地域

若者の定着は、地域のすべての問題に還ってきま

す。若者が定着しなければ、財政の問題も福祉の問題も苦しくなる一方です。

産業の振興による雇用の確保と税収の増大、低家賃の住宅や子ども達の教育環境の整備、社会資本の整備による生活環境の改善により、若者が「ここに住みたい」と思える地域づくりが大切です。

新規製造業の誘致は、地域の立地条件から非常に困難です。産業振興の要は、観光しかありません。この地域は昔から本気で観光に取り組んで来たとは言えません。新幹線の開通に合わせ駅周辺整備をしても、誰も降りなければ何にもならないのです。糸魚川駅で降りる目的を作る必要があります。新しい市長には、まずこの仕事をしてもらわなくてはなりません。私は地方議員の立場で、有り合わせを尽くし努力します。



小集会風景

「少年期の発育発達に適した環境整備を」
現在、日本（世界）は通信・交通網の発達により確実に狭くなっています。この地域に生活しながら都市圏への通勤・在宅勤務ができる環境も整いつつあります。地域環境と教育環境をより整備し、若者・「子育て世代」に対して自然を生かし生活できることをアピール。他地域との「差別化」をして親子の笑い声が響く地域創りを願っています。

須沢 I・K 40代男性

伊藤の考え・・・永年の少年指導の経験から その2



ケース1 コンビニの前でスカート履いて、座り込んでいる女子高生。見かねた大人の注意に「誰にも迷惑掛けてないからいいじゃない。」

ケース2 電車で化粧をする娘に「人前で化粧するものじゃないよ、みっともない。」と母親。「誰にも迷惑掛けてないからいいじゃない。」

この子ども達には「公共」の観念がありませんので教えてやるのが大切です。人が自由に出入りできる場所は全て公共の場であり、他人に不快感を与えるような行為は許されません。そして、たしなみとしてする化粧は、人前に入る時には整っているべきであり、人前するのは心得違いというものです。本人は良くとも、場をわきまえない行為は周囲の人を不快にさせます。「公共」の観念を持った人間を育てるためには、私たち大人がその意味を考え、子ども達に説く術を身につけなければなりません。

ケース3 アルバイトをして自由に使える小遣いを稼ぐという中学生。駄目だという親に「b君の家ではいいのに、どうしてうちでは駄目なんだ。」

b君は月に3万円ほど稼いで自由に使い、夜遅くまで遊び歩いているという。

中学生の「分」は何でしょうか。親の庇護を受け、勉学に、スポーツに励み、良い友達を作り、友情を育むべき大事な時期です。自分の小遣いを稼いで自由に使うことが許される「身分」ではないのです。もちろん、苦しい家計を助けるためにアルバイトをするのであれば、こんな立派なことはありません。自分が贅沢をしたいからアルバイトをするなどということが許される「立場」ではないのです。

古いようですが、人間修行の最中であることが彼らの「分」なのです。

豊かな自然を大切に
した環境に優しい地域

地球環境が心配です。子孫々にまで豊かな地球を残してやりたいものです。真剣に環境問題に取り組み、ここの豊かな自然を守る努力をします。

昨年の異常気象は地球温暖化の影響を連想させ不安を募らせました。

ゴミの不法投棄・資源の再生も大きな問題です。ゴミの分別収集を徹底と資源の再生利用を促進し、地球環境保護の推進に取り組みます。

日光の林道へ出かけた時の事です。景色の良い所で写真を撮ろうと思いい車を止めたところ、道路下の斜面に冷蔵庫が捨てられていました。環境保護は、一人一人がモラルをもって、真剣に考えなければなりません。行政にも、その必要性を広め、尚且つ不法投棄を防ぐシステム作りを望みます。

須沢 I・S 40代男性



女性が力を発揮できる
社会

「男女共同参画社会」に関する議論、取り組みが活発になっていきます。東京都では、「性差を否定する」という極端な解釈で使用されがちな「ジェンダーフリー」の用語を教育現場から全廃することを決めました。
男女がお互いの性差を認め合った上で、本来の意味でお互いを大切にし合う社会の仕組み作りを尽力し「男女共同参画社会」の推進に取り組みます。

人に優しい地域

福祉、介護、支援、環境の整備を促進し、人々が安心して生活できる地域を目指します。

防災対策の決め手が自主防災組織であるように、人に優しい地域づくりの決め手も地域自治組織です。

三位一体の改革が行われると、何もかもを行政に期待することは難しくなります。子育て世代は自分のことで精一杯な中、自分たちで助け合えるところは自分たちでと、「元気な高齢者」が「弱い高齢者」を助ける仕組みづくりも大切になると確信します。

これからは、男女それぞれが一人の人間として「豊か」に生きて行けるような社会になり、経済的だけではなく、生き方の面でも「豊か」になっていけるようにと願います。
それには、夫婦がお互いの立場を尊重し協力し合うことが基本ですが、子育てや介護など地域でのサポートも重要なポイントになってくると思います。
これから多くの人が「豊か」な人生を送れるよう地域のサポートの充実をお願いします。

本町 A・M 40代女性

「子育てを通し感じた一言」
子供が小さい頃はあちこちに公園があり、海や山もあり子供を育てるには最高の町でした。しかし子供が大きくなると公園で野球やサッカーをさせられずのびのび遊ばせる所が少ない事に気が付きました。今後新幹線の下を大きな子供達の為にも利用させて欲しいです。

今村新田 O・M 30代女性

編集後記

あけましておめでとうございませう。昨年は、猛暑、台風による水害、地震など自然による猛威を改めて知らされる一年となりました。今年には私たちの廻りでも新市による合併など激動の年になりそうです。

この「いっぼん」が、私たち一人一人が変動期の市政へ関心を持つことの一助となれば幸いです。
今年一年が皆様にとって良い年となりますことをお祈り申し上げます。
^上窪v

伊藤ふみひろ後援会

連絡先

☎0255-62-3759 青木

☎0255-62-4475 伊藤(信)

☎0255-62-2121 比護

E-mail itou02@ito-omi.com

URL : <http://www.fumihiro-ito.com>

前号はホームページでご覧になれます